

第1章 TPO別きもの揃え

男のきもの基本の装い

男性のきものにもいくつかの種類があります。大別すると、フォーマル、セミフォーマル、カジュアルの三タイプになりますが、それらは洋服と同じようにTPOによって着分けれます。

結婚式に — 五つ紋付きの羽織に仙台平の袴



きものと羽織は羽二重を黒に染めたもの。袴の縞は太いほど若々しくなり、細いほど落ち着いた感じになります。半衿、羽織紐、足袋は白が基本。履物は白い鼻緒の雪駄をはきます。



五つ紋は背中心、両外袖、両胸の計五か所につけます。

男性の第一礼装は、五つ紋付きの無地のきものと羽織袴です。きものと羽織の色は黒が基本で、どちらにも染め抜き日向五つ紋をつけます。袴は縞を織り出した「仙台平」を用います。この正装は、結婚式・披露宴では新郎、仲人、新郎新婦の父親や親族など。洋装でいえば、モーニングコートやテールコート(燕尾服)にあたります。黒紋付きのほか、グレーやブルーなどの色紋付きもあり、こちらは花婿のお色直しや主賓、親族などです。結婚式以外では各種宴席やお茶会にも向きます。

パーティーに — 三つ紋付きの羽織に御召の袴



江戸小紋のきものに黒無地の羽織、無地の御召の袴。改まった席には白足袋に白い鼻緒の雪駄を。もう少し気楽にしたいときは、色足袋に色鼻緒の雪駄や草履を合わせます。

一つ紋は背中心に、三つ紋の場合はさらに両外袖につけます。写真の紋は貼付け紋(略装)で、簡単につけたりはずしたりが可能です。

ディレクターズスーツやブラックスーツなどに匹敵する準礼装は、縮緬や御召、紬などのきものと羽織、織り縞や無地の袴です。素材に関係なく、羽織に三つ紋か一つ紋をつけることで格が上がり、かなり改まった席にも着ることが出来ます。また、各種パーティーやお祝いの席などにも向きます。羽織袴でも、紋をつけない場合は通常のスーツのような感覚ですが、気楽な中にもきちんとした装いになり、現代生活ではもったも利用範囲が広いかもしれません。

